

令和八年度

滝川第二中学校 入学考查 問題

C日程

国語

(四十分・百点)

注意事項

- 1 問題は1ページから14ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内わくないに記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 4 受験番号と氏名を、解答用紙と問題冊子の表紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督かんとくの先生の指示に従いなさい。

受験番号						氏名
			—			

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（指定された字数には、句読点その他の符号ふごうもそれぞれ一字としてふくみます。また、書きぬく部分にふりがながある場合、これを省略してもかまいません。）

子どもの絵本は、<sup>①</sup>オノマトペにあふれている。子どもはオノマトペが大好きだ。子どもを育てたことがある人、子どもが身近にいる人は、彼らかれがオノマトペを口ずさむ姿を思い出すかもしれない。子どもはなぜオノマトペが好きなのだろう？ オノマトペには子どものことばの発達に、何かよい効果があるのだろうか？

### 子どもが小さいほどオノマトペを多用する

大人は子どもに話すときには本当にオノマトペを多用しているのだろうか？ まず、この素朴そぼくな疑問の真相を確かめるために実験を行ってみた。ソーセージにフォークを突き刺さす、紙を丸める、ハサミで紙を切る、浮うき輪で水に浮く、など日常的な動作のアニメーションを12種類用意した。

それぞれの動作は動詞を使って表現することもできるが、「ブスツ」「クシャツ」「チョキチョキ」「プカプカ」などとオノマト

ペで表現することもできる。19組の親子ペアに調査に参加してもらい、そのうち10組は子どもが2歳さい、9組は3歳だった。保護者は、12種類すべてのアニメ<sup>②</sup>（表4-1、図4-1）を見ながら、自分の子どもに向かってアニメの中身を話してもらった。その後、保護者は、実験者（大人）に対して同じ12種類のアニメについて話をした。

すると親たちは、<sup>③</sup>（A）に話すときよりも（B）に話すときのほうが、オノマトペを頻※ひんぱん繁に使うことがわかった。しかも、子どもが小さいほど、オノマトペの頻度※が高いことが実験からわかったのである（<sup>④</sup>図4-2）。

この実験では、子どもの（C）によって、親がオノマトペの使い方を変えていることもわかった。

オノマトペがそれぞれの発話でどのように用いられたかを探るため、親がオノマトペをどの品詞で使っていたかを分類した。子どもに向けた発話と大人に向けた発話でオノマトペの使われ方に違いちががあるかを見てみると、間投詞的な使い方と副詞的な使い方に大別することができた。間投詞というのは、文の中で文法的な役割を担になうのではなく、「あーっ」や「どっこいしょ」などのように、口について出ることばである。感情や態度が思わず声とし

て出てしまう感じで発話されることが多い。オノマトペも、「くしゃくしゃー、くしゃくしゃー」のように完全にオノマトペ単体で使われるものが子どもに向けた発話ではよく見られた。これも間投詞的な使い方である。

それに対して、大人に向けられた発話では、「くしゃくしゃに、丸めています」のように（D）を修飾する（E）的な使い方がもっとも目立った。そのほか、「くしゅくしゅしてよ」のように「する」と結びつき、動詞的な役割を担っていると見なせるものが、子ども向け発話にも大人向け発話にもいくらか見られた。

#### 〈中 略〉

#### 絵本の中のオノマトペ

おもしろいことに、絵本でも、対象とする子どもの年齢層ごとに、オノマトペの使われ方に違いがある。0歳用の絵本は、『もこもこもこ』のように、1ページにオノマトペを一つだけ印象深く使うものが目立つ。文の中で使われるのではなく、オノマトペ単体である。子どもはひたすらオノマトペの（F）と（G）の絶妙なマッチングを感覚的に楽しむ。

2歳半以降の幼児を対象にした絵本では、ことばが組み合わせられ、簡単な句や文が使われるようになる。ここでのオノマトペは少し違った役目を担う。『しろくまちゃんのほっとけーき』は、文字どおり主人公のしろくまちゃんがホットケーキを作る絵本である。

どろっとしたタネがフライパンに落とされ、火が通っていくと気泡ができて音がしてくる。片側が焼けてきたらシュッとひっくり返され、フライパンにべたんと着地。まだ生焼けだった側にも火が通ってきてふつくら、そしていい匂い。最後にフライ返しで投げてお皿に到着。おいしいホットケーキのできあがり。

一連の過程を表すと、長い、複雑な文章になるが、それでは1、2歳の乳児にはとても理解できない。でもオノマトペを重ねるとどうだろうか。

ぽたあん どろどろ ぴちぴちぴち ぷつぷつ しゅっ ぺたん ふくふく ⑤ くんくん ぽいっ

すでにこれらのオノマトペを知っている大人はもとより、知らなかった赤ちゃんにも、音、匂い、触感、火が通っておいしくなっていくさまが感じ取れる。視覚、嗅覚、触覚など複

数の感覚にまたがったホットケーキの変化の様子が一場面一場面、鮮やかに目に浮かぶ。単語や構文を理解できない赤ちゃんでも十分楽しめる。

〈中略〉

### 名づけの洞察―ヘレン・ケラーの閃き

ことばの音と対象の対応づけが自然にわかると、何がもたらされるか？ これを何回か経験すると、⑥「単語には意味がある」という洞察を赤ちゃんが得ることができるのだ。

一般的に、ことば（単語）はその音から意味を推察することができる。「フィッシュ」「ポワソン」「ユイ」。これらは英語、フランス語、中国語でそれぞれ〈魚〉を意味する単語である。とくに〈魚〉を思わせる音ではないし、互いに音が似ているわけでもない。つまり、ことばの音と意味の間には、直接的な関係はない。

（H）オノマトペは違う。「トントン」と「ドンドン」、「チョコチョコ」と「ノシノシ」など、それぞれの単語の音は意味とつながっている。（I）音が意味を教えてくれるのだ。音をちよつと変えて、「チヨカチヨカ」「ノスノス」にしても、軽い感じ、重くてゆっくりした感じは保たれる。普通のことばだ

とそうはいかない。（J）サカナの最後の母音を変えてサカノにすると、サカナとはまったく関係ない意味になってしまう。言語をすでに使いこなしている私たち大人にとって、音声のことばにはそれぞれ指し示す対象があり、意味を持つ、という「名づけ」は、当然のもののように思える。しかし、考えてみると、赤ちゃんはどのように名づけに気づくようになるのだろうか？

対象それぞれに異なる名前があるということは、実は偉大な洞察なのである。視覚と聴覚を失くしたヘレン・ケラーは、掌に冷たい水を受けているときにサリバン先生が「water」と指文字で綴ると、その指文字とは掌に流れる冷たい液体の名前なのだという啓示を得た。このエピソードをご存じの方は多いだろう。

それ以前にもヘレンは、モノを手渡されるそのときどきに、サリバン先生の指が別々の動きをしていることに気づいていた。しかし、彼女が手で触れるサリバン先生の指文字の形がその対象の「名前」だということには気づいていなかった。それまで、指文字を覚え、対象を手渡されれば指文字を綴ることができたが、ヘレンはのちにそれを「（K）まねだった」と回想している。ヘレンは、waterという綴りが名前だということに気づいたとき、すべてのモノには名前があるのだという閃きを得た。この

閃きこそが「名づけの洞察」だ。

名づけの洞察は、言語習得の大事な第一歩である。人間が持っている視覚や聴覚と音の間に類似性を見つけ、自然に対応づける  
 ※おんしょうちよう 音象 徴能力は、モノには名前があるという気づきをもたらす。  
 その気づきが、身の回りのモノや行為すべての名前を覚えようとすると急速な ※こい 語彙の成長、「語彙爆発」と呼ばれる現象につながるのだ。語彙が増えると子どもは語彙に潜むさまざまなパターンに気づく。その気づきがさらに新しい単語の意味の推論を助け、語彙を成長させていく ⑧ (L) 力となるのである。

(今井むつみ・秋田喜美「言語の本質」より。)

注 頻繁：物事がしきりに行われたり、ひっきりなしに続いたりすること。

頻度：同じ（種類の）事が繰り返して起こる度数。

洞察：（物事の本質を）見通すこと。見抜くこと。

啓示：（神が人に対して）人力ではとうてい知ることのできない事をあらわし示すこと。

音象徴：音そのものが持つ特徴から、特定の意味やイメージを直接的に連想させる現象。例えば、高い音は明る

表4-1 大人への発話 vs. こどもへの発話の比較実験に用いたアニメーション

	動作	オノマトペの語根	
1	紙を丸める	クシャ	擬音語
2	ソーセージにフォークを刺す	ブス	
3	のこぎりで板を切る	⑤	
4	①	パチ	
5	ハサミで紙を切る	チョキ	擬態語
6	②	ブン	
7	③	ゴシ	
8	ごみを放り投げる	⑥	
9	浮き輪で水に浮く	ブカ	
10	ご飯をこぼす	⑦	
11	ゆか寝ころ 床に寝転がる	⑧	
12	④	ツン	



図4-1 アニメ「ソーセージにフォークを刺す」

イメージと結びつきやすかったり、「キラキラ」という音の連なりが輝きを連想させたりすること。語彙：ある人が知っている言葉の数や、ある分野で使われる単語の集まり。

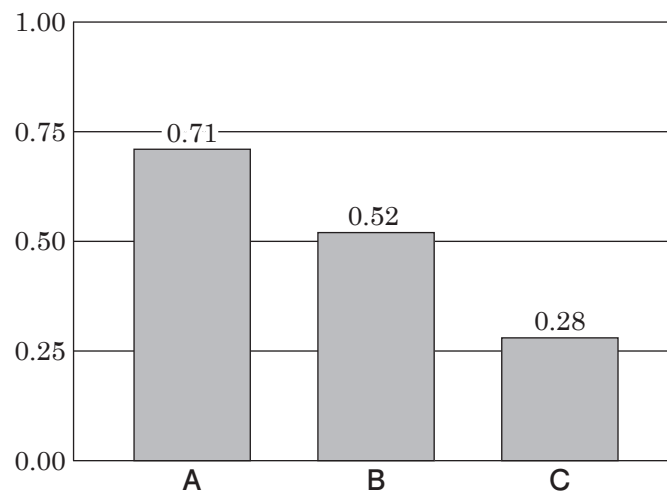


図4 - 2 動作説明のときにオノマトペを使用した割合

問一 — 線部①「オノマトペ」の意味について説明した次の文の【 】に入ることを、それぞれ漢字一字で答えなさい。

「わんわん」「ザーザー」のような擬【ア】語、および「はらはら」「わくわく」のような擬【イ】語のこと。

問二 — 線部②「表4-1」について、①～⑧に適切な語句を補いなさい。ただし、①～④は【A群】、⑤～⑧は【B群】の【ア】から選び、記号で答えなさい。

【A群】

ア 虫をつつく      イ 廊下を走る      ウ 手を叩く

エ 全力で泳ぐ      オ 雑巾で床を拭く      カ 腕を回す

【B群】

ア シーン      イ ポロ      ウ ギコ

エ ゴロ      オ ギユ      カ ポイ

問三 — 線部③の（A）・（B）に入ることを、  
「大人」「子ども」のどちらかを補って答えなさい。

問四 — 線部④「図4-2」において、2歳児に向けた会話の結果を示すものは、AとCのどれですか。記号で答えなさい。

問五 (C) に入ることばを、本文中の2ページ目上段と3ページ目上段の、★の部分から二字で書きぬきなさい。

問六 (D)・(E) に入ることばを、本文中から二字で書きぬきなさい。

問七 (F)・(G) に入ることばとして最も適当なものを、次のア～クから選び、記号で答えなさい。

ア	光	イ	音	ウ	筋書き	エ	主人公
オ	絵	カ	セリフ	キ	大きさ	ク	形状

問八 — 線部⑤「くんくん」は、人間の持つ五感のうちどれを用いたのですか。「く覚」という形で答えなさい。

問九 — 線部⑥『単語には意味がある』という洞察とありますが、「単語には意味がある」ということを、本文中ではどのように呼んでいますか。三字で書きぬきなさい。

問十 (H)・(J) に入ることばとして適当なものを、次のア～カから選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選べません。)

ア	たとえば	イ	つまり	ウ	そのうえ
エ	なぜなら	オ	しかし	カ	それゆえ

問十一 — 線部⑦が「意味や意図を理解せずに、ただ表面的な行動をまねること。」という意味になるように、(K)に入る動物名をひらがなで答えなさい。

問十二 — 線部⑧が「活動を起こすもとなる力。」という意味になるように、(L)に入ることばを漢字二字で答えなさい。



二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（指定された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。また、書きぬく部分にふりがながある場合、これを省略してもかまいません。）

菅原高校の入学式当日、牧原葉は同じクラスの平尾安以加から「平安部を作りたい」と声をかけられます。部として認められるには五人以上の部員が必要のため、安以加と葉は部員集めを始めます。絞り出した知恵と努力の甲斐あって、様々な個性を持つ五人のメンバーが集まり、平安部は正式に発足します。部員たちは、平安時代をテーマとして様々な活動を模索し、試行錯誤しながら活動をスタートさせます。知識はあまりないけれど、平安時代に興味を持つ安以加を中心に、部員たちは「平安の心」を学び、絆を深めていきます。主な登場人物は以下の通りです。

・平尾安以加

一年五組。書道師範・平尾一郎の孫で達筆。入学式当日、平安の心をまなぶ「平安部」を設立しようと葉を誘

う。部活初日に部長になる。

・牧原葉

一年五組。平安時代が大嫌いであったが、安以加に勧誘され平安部に入部する。

・大日向大貴

一年二組。アルバイトをメインに考えて楽な部活を希望しており、勧誘され平安部に入部する。中学まではずっと補欠ながらサッカー部で活動していた。

・明石すみれ

二年一組。百人一首部の幽霊部員。ショートカットで健康そうな女子。競技かるたには興味はないが、百人一首に興味がある。

・光吉幸太郎

二年五組。安以加の幼なじみで、小学生のころ平尾書道教室に通っていた。物理部からの転部。オーラがあるイケメンだが、発言の内容は小学生レベル。



月曜日はなんとなく（A）気分で登校するけれど、今日から平安部がはじまると思うと少しだけ元気が出る。安以加、大日向くん、明石さん、光吉さんの顔を思い浮かべながら、学校への道を歩く。

「葉ちゃん、見て見て」

安以加は登校してくるなり、わたしの机に紫色の風呂敷包みを載せた。結び目をほぐくと、「平安部」と毛筆で書かれた木片が現れる。

「じゃーん」

安以加が持ち上げた木片はまな板ほどの大きさで、上部にはドアに引っ掛けるためのひもが通してある。文字は迫力のある行書で、誰が書いたかは聞くまでもないだろう。

「すごいね」

そのまま寺院に飾ってあっても（B）<sup>①</sup> 感がなさそうだ。こんな特技があるのに、平安部のためだけに使うなんてもったいない気がしてしまう。

「平安部、マジでできたんだ」

八木くんが平安部の看板を見て言う。

「そうそう。八木くんのおかげで大日向くんが入ってくれたんだ

よ。ありがとうございます」

安以加が言うと、八木くんの顔に困惑が浮かんだ。

「えっ、そ、そうなんだ。そりゃよかった」

どうやらあの後のことは知らなかったらしい。中学時代のチームメイトが得体の知れない平安部に入ったとなれば、こういう反応にもなるだろう。安以加はそれに気付いているのかいないのか、「ほんとに感謝してるよー」と朗らかに言った。

やっぱり平安部に対する世間の反応はあんな感じだろう。自分から望んで入ったものの、これでよかったのかという（C）は残る。

それでも放課後、安以加が背伸びして部室のドアに看板を掲げたときには感動した。ただの空き部室が、平安部の拠点に変わる瞬間に立ち会ったのだ。

「えっ、なにこの看板」

そこへちょうど明石さんがやってきた。

「安以加が作ってきたんです」

「すごい、本格的だね。このまま売れそう」

明石さんはスマホで写真を撮っている。

「ありがとうございます」

安以加がうれしそうに答えるのを見て、前にもこんなことがあったなと思う。うまい具合に伝える言葉を考えているうちに、タイミングを逸<sup>い</sup>してしまうのだ。明石さんみたいに、もっと<sup>②</sup>無<sup>む</sup>邪<sup>じゃ</sup>気に発言できたらいいのに。

ドアを開けると、<sup>③</sup>明石さんが「部室だー！」と声を上げた。

「百人一首部は和室を使ってるから、こういう部屋じゃないんだよね」

明石さんは机にカバンを置き、のしのし奥<sup>おく</sup>へと歩いて行って窓を開けた。部屋の中に涼<sup>すず</sup>しい空気が流れ込<sup>こ</sup>んでくる。窓の向こうはグラウンドで、坊主頭<sup>ぼうずあたま</sup>の野球部員たちが走り込みをしているのが見えた。

〈中 略〉

「そういえば、葉は何部に入ったの？」

その日の晩ごはんのテーブルで母親に尋<sup>たず</sup>ねられ、心臓がびくつと跳<sup>は</sup>ねる。入学したばかりのときにも聞かれたのだが、うかつに平安部なんて言ったらあれこれ詮索<sup>せんさく</sup>されて面倒<sup>めんどう</sup>なので、「迷ってる」と伝えていたのだ。

もうすぐゴールデンウィークだし、今の時点で決まっていらない設定は無理がある。大皿に盛られた回鍋肉<sup>ホイコーロ</sup>に目をやるが、なんの

ヒントにもならない。

「えっと……歴史を研究するっていうか……勉強する部……」

自分の入っている部活にこれほど<sup>④</sup>（D）切れが悪い人間がいるだろうか。隣に座<sup>すわ</sup>っている泉<sup>いずみ</sup>が「えっ？ お姉ちゃん、歴史なんて興味あるの？」と驚<sup>おどろ</sup>いたように言う。

三歳下の妹、泉は森富中<sup>もりとみ</sup>に入学したばかりだ。（E）で陸上部に入ったわたしとは違い、小学校の頃<sup>ころ</sup>からの仲良しグループでバスケット部に入ったと言っていた。

「いや、興味ないよ。クラスの子に誘われたの。それに週一回だし、ラクだから」

なぜか言い訳みたいになってしまう。

「そういえば、学校の近くのたい焼き屋さんのたい焼きがおいしいんだよ。今度買ってくるね」

「イエーイ」

うまい具合にわたしの部活の話題は終わって、来月行われる泉の中学の自然教室の話に移った。平安部の活動に<sup>⑤</sup>やましいことなんて何もないのに、家族に話すのは<sup>⑥</sup>躊躇<sup>ちゅうちよ</sup>してしまう。

〈中 略〉

「えっ、ロボットが料理運んでるの？」

安以加が配膳ロボットに<sup>⑤</sup>（F）を丸くする。

「うん、今じゃレストランで働いてる人間はいないよ」

光吉さんがさらっと言う。

「いやいや、変なこと教えちゃダメでしょ。ロボットがいるお店のほう<sup>めずら</sup>が珍しいよ」

早くも明石さんがツツコミ役として<sup>⑥</sup>（G）角を現している。

大日向くんはマイペースに「僕はポテトを注文します」と光吉さんの持つタブレットに指を伸ば<sup>の</sup>ばしていた。

わたしはドリンクバーだけ注文し、カルピスを飲む。歩いて疲<sup>つか</sup>れた身体に甘<sup>あま</sup>さがしみていくようだった。

「文化祭でどんな展示するか、安以加はもうイメージできてるの？」

安以加はホットの煎茶<sup>せんちゃ</sup>を飲んでいた。

「なんとなく、やってみたいことはあるんだけど……」

「あれっ、平尾さんじゃない？」

声のするほうに目をやると、他校の制服を着た女子が安以加を見てニヤニヤしている。

「あっ、ほんとだ。元気ー？」

もう一人同じ制服の女子が現れた。その口調と表情から、安以

加を<sup>X</sup>に見ているのは明らかだ。

「うん、元気してるよ」

安以加の表情もどことなく（H）いて、テーブルに緊張<sup>きんちよう</sup>感が漂<sup>かん</sup>いはじめた。わたしはもはや氷だけになったグラスをストローですする。

「平尾さんにも友だちできたんだ」

ああやだやだ。にこやかに感じよく見せかけて、安以加より<sup>Y</sup>にいるのが確定しているような態度。女子にありがちなアレだ。

中学時代、わたしもスクールカーストにおいてたいがい<sup>Z</sup>のほうだったけど、先生にもびしっと言うようなご意見番キャラで通ってきたから、あからさまにバカにされるようなことはなかった。

安以加を助けるために何を言おうか迷っていると、明石さんが明るい声を上げた。

「そうなの！ わたしたち、安以加ちゃんと同じ部活なの」

ここに明石さんがいてくれてよかった。安以加に絡<sup>から</sup>んできた女子は調子を崩<sup>くず</sup>すことなく「へえ、何部ですか」と尋ねる。

「平安部だよ」

答えたのは光吉さんだった。二人の女子が光吉さんを見て真顔

になっている。平安部という回答に対して真顔になったのか、光吉さんの容姿に対して真顔になったのか、あるいはその両方だろうか。

光吉さんは（Ⅰ）負けと言わんばかりに女子の顔をまっすぐ見つめている。わたしが見つめられる方だったら耐えられない。

「平安部？」

一人の女子が我に返ったかのように発声する。

「いみじ……じゃなくって、平尾さんが作ったの？」

なるほど、安以加は陰で「いみじ」と呼ばれていたらしい。

「安以加ちゃんが平安の心を学びましょうっていったって、わたしたちを集めて新しい部を作ったの。すごいでしょ？」

明石さんだって女子たちの悪意に気付いていないはずがない。

ひとつ学年が違うだけなのに、ずいぶんお姉さんみたいだ。一方で大日向くんはそんな会話も（Ⅱ）で、スマホをいじりながらポテトを食べていた。

「う、うん。すごいね」

一人の女子は光吉さんの顔をちらちら見ていたが、もう一人の女子が「またね」と会話をたたみ、二人そろって去っていった。

〈中略〉

「こんなに守ってもらったことないから、どんな顔していいかわかんない」

その気持ちはなんとなくわかる。わたしの場合、あからさまに仲間はずれにされたことはないが、周囲から好かれていない自覚があった。こんなふうにかばってもらえたら、うれしいというより戸惑ってしまいそうだ。

「あたし、これまで学校で居場所がなかったから、高校に入ったら自分で居場所を作ってみたくて、新しい部を立ち上げようって思ってたんです」

なるほど、そんな動機があったのか。

「ずいぶん思い切ったね」

明石さんがツツコミを入れる。それまで居場所がないと言っていた人とは思えない、大胆な高校デビュー計画である。

（宮島未奈「それいけ！ 平安部」より。）

問一（A）に入ることばとして最も適当なものを、次のア

イ 才から選び、記号で答えなさい。

ア 爽快な イ 刺激的な ウ 憂鬱な

エ 不可解な オ 流動的な

問二——線部①が「調和を失った感じや不自然な感じはなさそ

うだ」という意味になるように、（B）に入ることばを

漢字二字で答えなさい。

問三（C）に入ることばとして最も適当なものを、次のア

イ 才から選び、記号で答えなさい。

ア 口に出せない罪悪感

イ おしよせる困惑

ウ ささやかな疑問

エ わりきれない不快感

オ 突然の不安

問四——線部②について、次の問いに答えなさい。

(1) 葉が「無邪気に発言」できない理由を本文中から一文で探し、最初の五字を書きぬきなさい。

(2) 明石さんが「無邪気に発言」した部分を、本文中から八字で書きぬきなさい。

問五——線部③について、ここで明石さんが感動しているのと

同じように、「部室」に対して葉も感動しました。葉が感動した理由を本文中から一文で探し、最初の五字を書きぬきなさい。

問六——線部④、⑤、⑥の文意が通じるように、（D）・

（F）・（G）に入る体の一部を示すことばを、漢字一字で答えなさい。

問七（E）に入る、「多様な選択肢のある場合、可能性の

低いものから順次消していき、最後に残ったものを選ぶ方法」を表すことばを、漢字三字で答えなさい。

問八 ――線部㊦「やましい」、㊩「躊躇」の意味として最も適

当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

㊦ ア 笑えない イ 説明できない

ウ 踏み切れない エ うしろめたい

オ 油断できない

㊩ ア 胸が一杯になること イ 迷いためらうこと

ウ 見下すこと エ 嫌になること

オ やり直すこと

問九 (H) に入ることばとして最も適当なものを、次のア

～オから選び、記号で答えなさい。

ア 喜んで イ やつれて ウ 上気して

エ ほころんで オ こわばって

問十 X Z に「上」または「下」を補って答えなさい。

問十一 (I) に入ることばとして最も適当なものを、次の

ア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 見つめられたら イ 声を発したら

ウ 味方の数が減ったら エ 笑ってしまったら

オ 目をそらしたら

問十二 (J) に入る慣用句として最も適当なものを、次の

ア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 猫に小判 イ どこ吹く風

ウ 馬の耳に念仏 エ 棚からぼたもち

オ お茶の子さいさい

問十三 安以加が「平安部」を設立しようとしたのはなぜです

か。本文中から四十字以内で探し、最初の五字を書きぬきな

さい。

三 次の生き物に関することわざの（ ）に入る語を、漢字一字

で書きなさい。また、そのことわざの意味をあとのアキから選び、記号で答えなさい。（同じものは二度選べません。）

- (1) ( ) 猿えんの仲 (2) 生き ( ) の目を抜く  
(3) ( ) 心あれば水心 (4) 足下から ( ) が立つ  
(5) 取らぬ狸たぬきの ( ) 算用

ア 身近な場所で突然思いもよらない出来事が起こること。

イ 非常に素早すばやく物事をこなす様子や、ずる賢がしこく他者より抜きん出て利益を得るような、抜け目がなく油断すくも隙すきもない様子。

ウ 手に入るかどうかわからない不確かなものに期待をかけ、それをもとに計画を立てること。

エ あれもこれもとねらって、結局どれも得られないこと。欲張りすぎて失敗すること。

オ 相手が好意を示してくれば、自分も相手に好意を持つて対応するということ。

カ 思いがけない偶然ぐうぜんの出来事や、他人の誘いによって良い方向に導かれること。

キ そりが合わず、常にいがみ合っているような非常に仲の悪い関係のこと。

四 次の――線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直して書

きなさい。

- (1) シュクシヤク五万分の一の地図。  
(2) 時間をゲンシユする。  
(3) キユウキユウ箱の薬。  
(4) 文献ぶんけんをフクシヤする。  
(5) イチヨウが弱い体質だ。  
(6) キンベンな仕事ぶり。  
(7) 父の故郷は漁業で栄えている。  
(8) 白旗をあげて降参する。  
(9) キャツシユレス決済けつさいの増加が著いちじるしい。  
(10) 妹のわがままぶりに閉口けいこうしている。



